

ハッチョウトンボは体長が2cm程度しかない、世界最小サイズのトンボです。田んぼが耕作放棄され湿地に戻るとどこからともなく現れて、条件が良いと大発生し、数年たって草が伸びたりして環境が変わるとパタリと姿を消してしまいます。小さなトンボですが、生息地の条件が悪くなると、好みの環境を求めてかなり移動するようです。成熟した♂は真っ赤になり、湿地の夏草色に映えます。伊那谷では、5月下旬から7月頃かけて見られるトンボです。



真っ赤に成熟したハッチョウトンボのみ

名前のハッチョウは、愛知県の地名「八町場」にちなむと言われている。写真ではわかりにくいですが、体全体が1円玉に収まるくらい小さなトンボ



上:成熟した♀の個体

成熟した♀は黄色の体色になる

下:大発生した時の様子

足の踏み場もないくらい大発生することもある



上:未成熟の個体はオレンジ色

下:発生地の休耕田

低い背丈の草が生え、水がびちゃびちゃの状態を好む